

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和7年10月31日現在

今月の重点活動

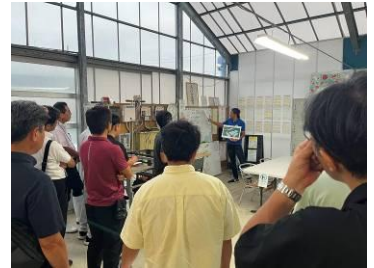
■指導農業士・青年農業士 岐阜農林高等学校教職員との情報交換会を開催

岐阜地域指導農業士連絡協議会及び青年農業士連絡協議会は、次代を担う学生に魅力ある農業を伝えるため、岐阜農林高校の学生を対象としたインターンシップの受け入れや出前講座等を実施している。

両協議会は、10月7日に岐阜農林高校の教職員との情報交換会を初めて開催し、指導農業士6名、青年農業士3名、教職員13名が出席した。現地視察では、大熊農園(本巣市)のトマトほ場を見学し、経営主として必要な労務管理のコツが紹介された。また、その後の交流会では、「学生に魅力ある農業を伝えるために、学校や農業士会は何をすべきか」をテーマにディスカッションが行われ、今後は岐阜農林高校と農業士会で連携を密にしていくこととなった。

農林事務所では引き続き、農業士会と農林高校との連携強化に向けて支援を行っていく。

(地域支援第二係・園芸産地支援第二係)



【現地視察の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■にんじん 各務原市にんじん部会 新品種導入で土壌病害対策

各務原市のにんじんは、春夏にんじんと冬にんじんを出荷する全国でも珍しい二期作のにんじん産地である。平成29年にJAぎふ各務原にんじん選果場が稼働して以後、生産者は調製・箱詰め作業を選果場に任せ、生産に専念できるようになったことで、ほ場の利用率が高まった。一方で、連作するほ場が増えたため土壌病害の発生が増加してきている。

農林事務所では、にんじん部会のブランド推進員に任命されている生産者と協力して、土壌消毒剤や緑肥の輪作による被害軽減、病害抵抗性のある品種の現地試験を実施してきた。令和5年度から3年間実施した品種試験の中で「アロマ810」が、しみ症(にんじんの表面に黒い斑点が出る土壌病害の総称)に強い品種として確認できたため、10月16日のにんじん部会役員会において推奨品種として推薦し、承認を得た。また、11月5日に開催される令和8年産春夏にんじん栽培講習会で、「アロマ810」の栽培特性を紹介する予定である。



【冬にんじん栽培講習会】

(地域支援第二係)

■かき 今年も出荷シーズン始まる

今年のかきは開花期以降、順調に生育していたものの、夏の記録的な高温や少雨・強い日差しにより日焼け果の発生が多く、小玉傾向である。しかし、昨年被害が大きかった果樹カメムシ類による被害は、追加防除の実施によりごくわずかの発生で抑えられた。その結果、早生品種の早秋では県全体出荷量のうち正品割合が前年同時期の49%から59%に上昇し、平均単価を押し上げた。

昨年、一昨年と収穫ピークが12月にずれ込んだ「富有」については、本年も同様に着色遅れのため収穫時期が遅延する見通しであり、8、9月の平均気温を基に予測した出荷ピークは12月3日頃となる見込みである。

温暖化の影響により、近年かきの着色の進捗や収穫時期が遅くなる傾向が顕著であり、従来に比べ栽培管理期間が長くなっている。農林事務所では、生育状況や病虫害発生状況等の情報提供を適期に行い、かきの高品質安定生産のための支援を継続していく。

(園芸産地支援第二係)



【収穫を迎えた早秋柿】

■水稻 ハツシモ岐阜S Lの優良種子確保

岐阜地域では、羽島市の3組合及び1法人が約7haの採種ほ場で「ハツシモ岐阜S L」の種子生産に取り組んでいる。

農林事務所は、採種ほ場として適正かどうか審査するため、出穂期(9月)と糊熟期(10月)の計2回、ほ場審査を実施し、雑草管理や病虫害の発生程度、異株の有無をほ場で確認した。その結果、採種ほ場として問題なかったことから全ほ場を合格とした。

ほ場審査結果を受け、ハツシモ岐阜S L種子の収穫は10月16日から行われ、10月29日時点で足近地区を除く2組合1法人の乾燥調製が終了した。

今後、農林事務所では収穫された種子粃について生産物審査(発芽力に関する調査)を実施し種子として適正であるか確認し、水稻の安定生産を支える優良種子の確保に取り組んでいく。

(地域支援第二係)



【乾燥調製施設】

■だいこん 岐阜市だいこん部会協議会 リビングマルチ栽培の推進

岐阜市だいこん部会協議会では、令和4年度から令和6年度にかけて、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」に取り組み、リビングマルチ利用技術を中心とした新たな栽培体系の導入検証を行ってきた。

今年度、実証技術の一つである畝間大麦の「ミノリムギ」を用いたリビングマルチ栽培の副次効果について調査を行ったところ、「雑草が減った」、「通路のぬかるみがなく作業性が良い」、「ほ場がふかふかになった」、「保水性、排水性が良くなった」等の改善効果を挙げる声が多く、技術の定着及びその他地域への普及推進を図っているところである。

当地域では、8月下旬から秋冬だいこん、10月中旬には祝だいこんの栽培が始まり、順次リビングマルチ栽培用の大麦のは種が行われている。今のところ、大麦は各ほ場順調に生育しており、翌年の春頃にはほ場へのすき込みが行われる予定である。

農林事務所では、今後も環境負荷低減に向けた技術の普及推進に向け、研修会などの機会を通し、啓発活動を行っていく。



【畝間で生育する
リビングマルチ用の大麦】

(園芸産地支援第一係)

■トマト 出荷開始！糸貫トマト振興会出荷目揃会

岐阜地域では、10月から本格的に冬春トマトの出荷が始まり、10月10日に糸貫トマト振興会の出荷目揃会が開催された。当振興会は若い農業者が多く、高品質なトマト生産に向けて、ぎふ清流GAPの団体認証を取得している。

目揃会では今年度から変更した出荷規格に合わせた選果基準の徹底に向け、市場関係者等を交えて意見交換が行われた。また、農林事務所からは病虫害防除に関する情報提供を行った。

本作のトマト栽培は、高温の影響で裂果等の発生が見られたものの、今後は気温の低下に合わせて出荷量が増えていく見込みであり、農林事務所では関係機関と連携し、トマトの安定生産を支援していく。



【目揃会の様子】

(園芸産地支援第一係)